

調査地は金沢城の周囲をめぐる東内惣構堀の外縁に隣接し、城下を通る近世北国街道に面する町屋及び門前地にあたる。

検出した遺構には、井戸・土坑・石列などがあり、下堤町地区で検出した石列は町屋の敷地境界の可能性

石川・下堤・青草町遺跡

- 1 所在地 石川県金沢市下堤町・青草町
- 2 調査期間 二〇〇五年(平17)七月～一〇月
- 3 発掘機関 金沢市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 谷口明伸
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡的年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下堤・青草町遺跡は、金沢市の中心部に位置する。調査は当該地区の再開発事業に伴うもので、調査面積は約三八五²mである。

がある。土坑は廃棄物を投棄したゴミ穴が多く、中には火災後の廃棄物を集中投棄したものもある。

木簡は、ゴミ穴とみられる土坑SK一〇七より一点が出土した。

SK一〇七は、径約二m深さ約一mのほぼ円形の土坑で、前述した敷地境界と考えられる石列の西に接する。共存遺物は一八世紀のものが主体であるが、一七世紀のものも一定量出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) □ 金屋四郎左 □□ 〔衛門力〕 165×(17)×6 081

上下両端は原形をとどめるが、左右両辺は欠損している。右寄りに人名を墨書し、その上部に墨点を記す。文化・文政年間（二八〇四～一八三〇）の町絵図には、調査区が位置する袋町内に「金屋専次郎」の名が見え、関連性が注目される。

(谷口明伸)

